

デービット・スウィーニー教授

Professor David Sweeney

リサーチイングランド会長

Executive Chair of Research England



略歴

スウィーニー教授は長年オープンアクセス分野で活動し、1997年より大学図書館の責任者である。2012年に英国のオープンアクセスの見直しを目的としたフィンチ・レポートを取りまとめ、cOAlition Sには創設時から携わっている。

英国高等教育財政審議会（HEFCE）の責任者を務めていたときには、英国の研究評価である Research Excellence Framework の開発・導入をリードし、研究ポリシーと資金、知識交換、産学連携の責任者を務めた。

リサーチイングランドは UKRI の研究会議のひとつで、他の7つの分野別研究会議とイノベーション機関（イノベート UK）とともに設立された。スウィーニー教授

はリサーチイングランド会長として地方への財政的支援、商用化およびオープンサイエンスに従事している。

スウィーニー教授は研究評価と財政的支援、特に研究のインパクトに関して助言しており、世界各国から講演に招かれている。また研究出版物への完全かつ即時オープンアクセスを求める国際的な取り組みを進める、cOAlition S 役員運営委員会のメンバーとしても活躍している。

発表の概要

英国のオープンサイエンスに対する取り組みを、特に出版物へのオープンアクセス、オープンリサーチデータ、オープンな文化の3つの観点から発表する。講演では、最近のUKRI オープンアクセス政策のレビューおよび研究論文・モノグラフへのアプローチの概要を紹介する。また研究の公正性・共同研究・イノベーションをサポートするために研究データを共有する政策の方向性と、実現するための人材育成・基盤への投資に触れ、最後に研究の報酬とインセンティブの改革によってオープンで透明性かつ影響力のある研究を実現するための重要な柱について述べる。UKRI は責任ある研究評価という手法で、英国内外のステークホルダーとオープンサイエンスを追求している。

オープンサイエンスの恩恵はパンデミックにおいて多く見受けられている。その中で得られた教訓、特に急速な研究の共有と共同研究をサポートし、研究データが可能な限りオープンで十分に安全であることは優先課題であると断言できる。パンデミックで生まれたいくつかの新たな優先課題について、その経験をもとに振り返る。